

大町病院を守る会会報

No. 37

2015年2月発行
大町病院を守る会
発行責任者北村喜男

産科医師確保に向けて3/16まで 皆で知事、信大病院長さんへ 要請署名3万筆を進めよう

信頼の大変厚い深松副院長先生（産科）が病気となられ治療のため療養に入りました。

産科が休診となり、替わりの産科医師を探すこととなりましたが、医師不足の中、産科医師はさらに不足しているため、なかなかみつきりません。病院では県や信州大学附属病院などに医師確保の要請をしていたところ2月20日、非常勤医師が来られることが決まり妊婦検診は行えるようになりました。しかし分娩は休止となり大北地域で唯一の産科がなくなってしまう恐れは続いています。守る会では医師確保に向けて阿部守一県知事と、信州大学医学部附属病院長の本郷一博先生宛て署名をすすめ産科の存続のための協力を要請していきます。そのため今後も3万人を目標に署名活動を進めていきます。会員の皆さん、住民の皆さん署名にご協力ください。なお最終締め切りは3月16日（日）とします。大町に縁故のある産科医の情報等がありましたらお寄せください。



産科医師確保要請書を手渡す牛越市長 2月3日

要請書

長野県知事 阿部守一 様

信州大学医学部附属病院 病院長 本郷一博 様

市立大町総合病院の産婦人科医師を確保する要請

日頃、県民の健康と生命を守るため、ご尽力いただき敬意と感謝を申し上げます。

さて、市立大町総合病院は、産婦人科医師の病気療養に伴い、出産の取扱い休止を余儀なくされ、今後も再開の目途が立たない深刻な状況になりました。

これは大北地域で唯一である出産を担う医療機関が無くなることとなり、大町病院で出産を行っていた年間 200 人余の住民が遠く穂高や松本、長野方面に行かなくてはなりません。

出産は言うまでもなく、数多い妊婦健診についても遠方に行くことになり、母体のリスクは相当大きなものとなります。また、今後の定住促進にも大きな影響を与えることとなります。大北地域で安心して子供を生み育てられる環境を守るため、大町病院へ産婦人科常勤医師の配置をご支援いただき、当地域内で出産ができる体制が維持できますよう格段のご高配を次の署名を添えて強く要請します。

市立大町総合病院を守る会 会長 北村 喜男



要請書を手渡す北村会長

知事に要請署名（緊急集約）6,580筆を提出



牛越徹市長、小林治男市議会議員、山田博美病院事業管理者、宮脇哲子事務長、守る会北村喜男会長、種山博茂事務局長、高橋博久事務局次長等が諏訪光昭県議を紹介議員として阿部守一知事を訪ね、大町病院産科存続のための医師確保の要請をしました。知事は「皆さんと一緒にできることは何でもする。産科医師がいなくても対応を検討していく。」と述べ、マスコミ関係者の退出後、ひざを突き合わせ対応を協議しました。守る会では要請書とわずか4日間で集約した熱い思いのこもった6,580

名の署名を知事に手渡しました。

地方独立行政法人県立病院機構 久保理事長に要請

これに先立ち県庁内にある地方独立行政法人長野県立病院機構久保恵嗣理事長を訪れ、産科継続のための医師の確保について要請しました。久保理事長は「県立木曾病院は1名体制で、県立須坂病院の産科医師配置も来年には余裕は全くなくなる。」と回答し、医師不足に対する中・長期の対応の必要性を語りました。【久保理事長に要請する市長・病院事業管理者・守る会会長】



市長・病院事業管理者は信州大学へも要請

2月2日、牛越徹市長と山田博美事業管理者、宮脇哲子事務長は信州大学医学部長池田修一先生と信大病院長本郷一博先生を個別に訪問し産科医師確保の要請をしました。信大病院は「信大病院でも産科医は足りない状況。産科医派遣のこれ以上の増員は難しい。」と回答しました。

県、周産期医療連絡調整協議会を9日に開催

2月9日、周産期医療連絡調整協議会を県庁で開き協議した。議題では大町病院の要請を受け、産婦人科医、新生児科医等の確保、人材育成について協議しました。

要請を受けた県は産科医定着へ諸施策を新設

2月10日に県庁で開いた県地域医療対策協議会（会長：久保恵嗣県立病院機構理事長、2月3日市長、守る会等が要請した。）で大町病院の産科休止問題を中心に話し合いがもたれました。県は産科医師の待遇改善に関する助成策を説明しました。時間外に帝王切開手術した医師に手当を支給する医療機関にその一部を県が補助し、自治体負担を減らし県が助成枠を新設するものです。

署名を連合自治会にもお願い。最終締め切りは3月16日（月）です。

署名は連合自治会や団体、職場、サークル、商店などあらゆるつてをお願いし進めていますが、最終締め切りを3月16日（月）とします。池田町、松川村、白馬村、小谷村でも実施されています。

集約の後県知事、信州大学病院へ守る会役員が届け、要請します。

署名の回収は市内10か所で・・・署名用紙はインターネットでも

署名提出は大町病院玄関入って左側の壁側または市役所、各支所、各公民館、大町公民館分室、体育館においてあります「署名回収箱」へ投函ください。

なお署名用紙が不足した場合は病院2階の事務室またはインターネット「市立大町総合病院」のホームページ、「守る会」バナーをクリックしてダウンロードをしてください。

各地で街頭署名を実施

守る会では2月3日、節分祭の行われている若一王子神社で神社の協力を得て5人が実施しました。500筆を集めました。また7日には大町温泉郷の「夢花火と音の祭典」会場で6名の役員・会員が署名活動を実施しました。11日、アメ市で賑わう「いーずら館」前でも8名で街頭署名を行い、17日にはスーパー入り口で14名で行いました。今後さらに大きな世論となることを願い街頭署名を実施していきます。



神社の協力を得て節分祭でにぎわう若一王子神社にて署名活動 ↑2/3

スーパー前での署名活動 ↓2/17

アメ市での街頭署名 ↓2/11



「深松先生一日も早い快復を」

病気療養中の深松先生にお世話になった皆さんからメッセージが届きました。

◎深松先生、先生に娘を取り上げてもらったTです。先生が病気だとお聞きして心配しています。入院中、先生の笑顔で癒されていました。早く元気になって またたくさんの赤ちゃんを取り上げてください。

娘は元気に育っています。(T・K)

◎深松先生へ

昨年の秋 女の子を出産しました。初めての出産で健診時は不安でいっぱいでしたが「赤ちゃん元気だから心配しなくてもいい。」という先生のお言葉にいつも励まされていました。出産にも立ち会っていただき、安心して産むことができました。本当にありがとうございました。この機会にゆっくり休んでください。一日も早いご快復をお祈り申し上げます。(T・Y)

雪上車、スノーモービル、宝探し、そりりレー、 抽選会、ジビエのライスカレーと豚汁で交流 雪遊び交流会に医師・職員・会員45名が参加



2月1日、守る会主催により、職員と守る会会員による雪遊び交流会が行われました。当日は関口先生をはじめ、病院スタッフ・そのご家族等45名が参加されました。交流会では子供も大人も楽しめる企画が盛りだくさん！時が経つのも忘れて、雪上車体験や雪上ゲーム、スノーモービルによるそり遊びなどを楽しみました。





雪遊び交流会は晴天と新雪に恵まれ、参加者の心を癒したのは、和かんじきによる雪上散歩。「ぐるったネットワークの皆さんによるガイドの下、なかなか見ることの出来ない雪原に覆われた景色を堪能しました。自然に触れ、静かな時間で気持ちを癒し、時に子供達と一緒に目いっぱい楽しんだ後、待っていたのはジビエカレー！と豚汁。児玉信子さんと守る会スタッフが腕をふるった昼食は里の香りに包まれた味付けが空腹を満たし、充実した交流会の締めを飾りました。

大町病院は今、中核施設として大きな正念場を迎えています。産科医の招聘をはじめ、これからは病院も積極的に地域の声を聞いていかなければなりません。交流会で共有した時間は、明日への活力となる貴重な機会となりました。いつまでも地域に安心を届けられる場所でありたい。

企画にご協力いただいた「ぐるったネットワーク」「カフェラビット」「やぎと草村の会」「トライ TO ヘルス」、実行委員の皆さまありがとうございました。

<雪遊び交流会の感想>

★雪遊び交流会は一大エンターテイメント！

東京にはディズニーランド、大阪にはユニバーサルスタジオ、そして大町にはこの「雪遊び交流会」がある！2月1日の澄み渡る晴れ空のもと妻と子供3人で参加させていただき、全員（子供はもちろん、大人も童心に帰って）存分に楽しませていただきました。かんじきをはいてまだ誰も踏んでない新雪の中を歩いたプチトレッキング、長～い坂を一気に滑り降りたそりすべり、スノーモービルに惹かれて軽快に走ったスノーラフティング、家族一丸となって競い楽しんだ雪山づくり競争、雪の中に埋まった果物を探した宝探し、そして最後は鹿肉を使ったジビエカレー！それはもうアトラクションの玉手箱！贅沢な遊びとはこういうことを言うのでしょうか。来年はもっと多くの人に来てもらいましょう！もっと多くの人々が、僕と同じ大町ファンになってくれることでしょうか！大町病院を守る会を始め企画運営にご尽力くださる皆様にいつも感謝感謝です。僕も医療の分野で還元できるよう精一杯頑張ります。（関口健二）

★職場では決して見ることの出来ない病院スタッフの表情を知り、そのご家族や地域の方と触れ合いを持つことができました。これぞ交流会の醍醐味です。県外出身で、寒さに弱い私ですが、思い切って参加して良かったと改めて思いました。充実した時間をありがとうございました。（田中大貴）



研修の先生方と交流



2月7日夜、高木哲副院長先生の呼び掛けで村松先生、栗林先生、中村先生、野中先生、矢口先生と職員、守る会有志が矢口先生の送別と激励、研修に来られた先生方の歓迎会を市内の料理店で開きました。

建設が進む被災者収容施設

昨年11月22日、白馬村、小谷村、大町市に大きな被害をもたらした神城断層地震の記憶も生々しいところですが、大町病院で建設が進む「被災者収容施設」の骨格が姿を現しました。

これまでは待合室を片付けての訓練や施術でしたが、完成すれば充実したサービスが送れます。早期の完成が望まれています。現在、厳寒の中での建設が進められています。



布切りボランティアがんばる



布切りボランティア講座を受けた皆さんがグループで毎月1回ずつ、虹の家と大町病院で布切りボランティアを行い、感謝されています。このグループの代表は中村けさ子さんで毎月午前中に4人で布切りをして8年目となります。

「この頃は布が少なくなってきました。木綿布や浴衣、シャツ、Tシャツ等洗濯したものを届けていただきたい」とのことです。感謝感謝です！！

福寿草の花が今年も玄関に

今年も福寿草の花が、病院正面玄関に飾られました。守る会会員が自宅で養生し、育てたもので3年目を迎えます。まだ咲き始めですが、けなげに、たくましく春の訪れを告げています。「頑張ろう 大町病院」のメッセージをつけて。



守る会に多額の寄付をありがとうございました

多額の寄付ありがとうございました。

財政が厳しい守る会に対し市内の企業や個人から多額の寄付をいただきました。深謝し報告します。相模組、ハーヴェスタクリエーションズ、大北農協、大八木建設、日特工業、黒部観光ホテル、関電アメニクス、宮下敬一氏の皆様より総額27万5千円の寄付をいただきました。公開講演会、要請署名など、会の活動に有効に活用させていただきます。

インターネットに会報が掲載されています。御覧ください。

守る会会報1号から36号までがインターネット上に掲載されています。

市立大町総合病院ホームページの右側下段の「病院を守る会」バナーをクリック、または「市立大町総合病院を守る会」で検索してみてください。会報がカラー写真で掲載されています。